

製品名: MUM1 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe86500**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,FC,IP
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:2000-1:20000,IHC 1:200-1:500,ICC/IF 1:200-1:500,FC 1:100-1:1000,IP 1:100-1:500
分子量	Calculated MW:52 kDa; Observed MW:52 kDa

抗原情報

遺伝子名	MUM1
別名	MUM1; LSIRF; SHEP8; NF-EM5
遺伝子ID	3662
SwissProt ID	Q15306
免疫原	ヒトMUM1の合成ペプチド

背景

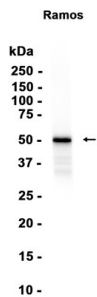
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、IRF（インターフェロン調節因子）転写因子ファミリーに属し、独特のトリプトファン

ン・ペンタッド・リピート DNA 結合ドメインを特徴とする。IRF は、ウイルス感染に対するインターフェロンの調節、およびインターフェロン誘導性遺伝子の調節において重要である。このファミリーメンバーはリンパ球特異的であり、自然免疫系および獲得免疫系の活性化に中心的な役割を果たす Toll 様受容体 (TLR) シグナル伝達を負に制御する。この遺伝子と IgH 遺伝子座 t(6;14) (p25;q32) を含む染色体転座は、多発性骨髄腫の原因となる可能性がある。この遺伝子には、選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが見つかっている。[RefSeq 提供、2010年8月]

研究分野

-

画像データ



MUM1 ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用した Ramos 細胞抽出物のウェスタンブロット分析。